

令和4年度学校自己評価システムシート (県立大宮商業高等学校 定時制課程)

目指す学校像	地域とともに未来を切り拓く、心豊かでたくましい生徒を育成する
--------	--------------------------------

重点目標	1 授業改善により、生徒の主体性を育み、学習習慣の確立と学力を定着させる 2 キャリア教育の充実により、生徒の進路意識を高め、進路実現を支援する 3 地域・保護者・外部団体との連携強化と教育活動の効果的な情報発信により、愛され信頼される学校をつくる 4 コミュニケーション能力の育成により、チャレンジ精神に溢れたたくましい人材をつくる
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学校自己評価							
年度目標				年度評価(2月1日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<現状> ○少人数のため、対話的な授業展開により、学びやすい環境にある。 ○主体的に学ぶことができる生徒は少ない。 <課題> ○「主体的・対話的で深い学び」となる授業実践の工夫が必要である。 ○義務教育段階で不登校を経験している生徒が多いため、基礎学力の定着、検定試験合格率向上の具体策が必要である。	○生徒に「主体的に学ぶ方法」を学習させ、基礎学力を定着させる。 ○各種検定試験への参加者数及び合格者数を増加させる。	①生徒の到達度に応じた学習支援が行えるよう、教職員全体で生徒の情報共有し、基礎学力を定着させる。 ②日々の授業において、BYODを含めたICTを積極的に活用し、生徒が主体的に学ぶ機会を設定する。 ③自ら問題解決に取り組むために図書館の利用を増加させる。 ④実施される主な検定試験の一部を一覧にして掲示し、各種検定試験の積極的な受験を促す。	①各学期における欠点保有率が昨年度に比べ減少したか。(各学期10%以下であったか。) ②アンケートにおける授業満足度が年間を通して90%以上であったか。 ③図書館での授業が倍増したか。 ④図書貸出数が倍増したか。 ⑤検定試験の受験者や合格者が昨年度と比較して増加したか。			
2	<現状> ○主体的に進路活動を行う生徒とそうでない生徒の差がある。 ○進路決定率があり、卒業時にはほぼ進路を決定している。 <課題> ○低学年の生徒の進路意識が低い。 ○情報不足により、進路の決定時期が遅い傾向にある。 ○進路指導に要する時間が長い。	○定期的に進路活動を行う生徒とそうでない生徒の差を向上させる。 ○自主的、自発的に進路活動を行わせる。 ○働き方改革をより推進する。	①定期的に進路だよりを発行する。 ②新聞や情報誌を提供する。 ③4年間を見通した進路指導のためにLHRでのキャリアパスポートの活用と進路に関する行事を行う。 ④外部の人材を活かした進路行事を企画し、実施する。 ⑤短時間で効率のよい進路指導を実践する。	①年間10回以上の情報発信をしたか。 ②生徒の進路に関する意識が向上したか。 ③外部の人材を活用した新たな進路行事を実施できたか。 ④超過勤務をすること無く指導を行ったか。			
3	<現状> ○ホームページのアクセス数が伸びている。 ○学校見学の問い合わせや参加者数の増減はない。 <課題> ○本校志願者数を確保する必要がある。 ○新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努めながら、新しい形での行事の開催、保護者や地域との連携を模索する必要がある。	○ホームページの更新頻度を増やし、アクセス数を更に伸ばす。 ○志願者数を増加させる。 ○保護者や地域と連携できる機会を増やす。	①各関係者を中心に、HPへの掲載記事を増加する。 ②学校案内、生徒会だよりを活用し、中学生に対して本校の取組をPRする。 ③保護者との連携を深めるために、授業参観や行事参観の機会をつくる。 ④ボランティア活動等で生徒を地域の行事に参加させる。	①ホームページの更新数、アクセス数が昨年度と比べて増加したか。 ②学校見学希望者が昨年度より増加したか。 ③志願者が昨年度より増加したか。 ④保護者の来校機会を年間5回以上設定したか。 ⑤地域の行事に参加した生徒がいたか。			
4	<現状> ○生徒は、概ね落ち着いた学校生活を送っている。 ○立哨指導、巡回指導で生徒とのコミュニケーションを深めている。 ○長期欠席者は少ない。 <課題> ○生徒が抱える悩みが多様化しており、生徒が相談しやすい体制を確立する必要がある。	○生徒への積極的な声かけや信頼関係づくりを行う。 ○安心・安全な学校生活を送れる環境を作り、不登校(長期欠席)を未然に防止する。	①日々の立哨指導や巡回指導を継続し、生徒理解を深める。 ②新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、登校前の健康観察入力、換気、消毒、熟食を徹底する。 ③不安を抱える生徒の情報を共有し、必要に応じて外部機関とも連携をする。 ④スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの効果的な対応のために来校日を周知する。	①転学者数及び退学者数が昨年度より減少したか。 ②登校前の健康観察入力状況が90%以上であるか。 ③長期欠席者数が昨年度より減少したか。 ④スクールカウンセラーの及びスクールソーシャルワーカーの活用で改善が見られた生徒がいたか。			

学校関係者評価		
実施日 令和4年2月21日		
学校関係者からの意見・要望・評価等		